

悲願の男・女初優勝 関東大学バスケットボールリーグ戦

最優秀選手賞 小野学 優秀選手賞・中川(和)、波多野 男子

昨季・全日本学生王者の実力を証明！9月14日から代々木第2体育館ほかで行われていた第79回関東大学バスケットボールリーグ戦で、専大は初優勝を遂げた。

個人賞では最優秀選手賞に小野学(商4・日大山形高)が選ばれ、中川和之(経済3・豊浦高)と波多野和也(経営3・静岡学園高)が優秀選手賞を受賞した。

優勝へ大手をかけて臨んだ最終週(10/25、26)日体大戦は両校の意地がぶつかり合う白熱した好ゲームとなった。目標とした「リバウンドで相手を圧倒するバスケ」が出来ずに初戦を落とし、最終週は同率首位同士の優勝決定戦。リズムが悪くなる場面が多かった専大だが、集中力を切らさず粘り強く戦った。苦しい展開の中、交代出場の大宮宏正(経済2・作新学院高)の3Pシュートをきっかけに勢いに乗り、14点リードで第4Qへ。日体大の猛追を受け、残り2分で5点差とつめよられるがリードを守りきり、64-59で勝利した。

リーグ戦を振り返って新関光一監督は「延長戦や僅差のゲームが多く、苦しいシーズンだったが、選手たちには良い経験となった」と語った。次の目標は当然、全日本学生制覇。インカレ第1シードとして臨む専大のさらに強く、カッコいい姿に期待したい。(松本旬平・経済1)

最優秀選手・リバウンド王 長南真由美 優秀選手賞 川村良子

第53回関東女子学生バスケットボールリーグ戦が9月6日から代々木第2体育館ほかで行われ、専大は12勝2敗で創部22年目、悲願の初優勝を達成した。

最終週(10/18、19)は10勝2敗で同率首位に立つ日体大と対戦。第1戦は77-73で勝利、優勝に王手をかけた第2戦は両チームとも一歩も退かない好勝負となった。前半、パスミスやファウルが目立ち、第2Q終了時には14点差をつけられる苦しい展開。しかし、後半に入ると流れは一変。後手に回っていた守備を修正し、強気にプレーすることで相手の高さを生かした攻撃に対応。これでペースをつかむと、9本中7本と脅威的な成功率を見せた関布紗子(商3・静岡商高)の3Pシュートなどで一気に逆転。終盤猛追を受け、一時同点に追いつかれるも、フリースローを確実に決めて再び突き放し、75-70で逆転勝利。日体大の大会12連覇を阻んだ。

最優秀選手賞には長南真由美(経営3・山形市立商高)が選ばれ、リバウンド王とW受賞。また、川村良子(文3・東京成徳大学高)が優秀選手賞を獲得した。

長南は「チームに取らせてもらった賞。一人で頑張ったわけではなくみんなであつかった優勝です」と語った。

「昨年までの出場機会の少なかった選手たちが貴重な経験を積むことが出来た」と児玉茂監督。次の目標は12月に行われる全日本学生選手権。(久我智也・文1)

【ニュース専修11月号16面】

Bブロック全勝!! 4年連続プレーオフ出場 アメフト



▲後藤のTD(明大戦)

関東大学アメリカンフットボール1部リーグ戦で快進撃を続けるグリーンマシーン。10月25日の東海大戦、11月1日の日大戦、11月8日の明大戦に勝ち、6戦全勝のBブロック1位で、4年連続となるプレーオフ出場を決めた。

【東海大戦】

前半、先制点を奪われるが、巧みなパスプレーや遠山嵩之(法3・大阪学芸高)のインターセプトなどで同点とし、後半へ。富田基

樹(経済3・足立学園高)から尾崎雄樹(経営4・箕面自由学園高)へのパスが通りTDを奪うと、そのままリードを守りきり、35-28で勝利した。

【日大戦】

幸先の良いTDで先制するものの、日大のロングパスを生かした攻撃に翻弄され、前半は13-14と1点のビハインド。しかし、後半は猛攻を見せ、後藤亨輔(商3・足立学園高)と岡本衛(法2・崇徳高)のアグレッシブなランプレイで追加点を挙げ、45-27で日大を振り切った。

細かなミスはあったものの強さを見つけた内容に「春に苦しんだ分、攻撃能力は上がっているよ」と平野恭雄監督は振り返った。

【明大戦】

前半6分、尾崎のパントリーターンTDで先制し、10-7で折り返す。後半開始早々、敵陣9ヤードまで攻め込むがTD出来ず、なかなかペースがつかめない。この嫌なムードを再三のインターセプトで払拭。終盤、長峯公太(法3・駒場学園高)らのロングゲインから追加点を挙げ、31-14で明大を下し、2年連続で全勝。

まずは11月23日、クラッシュボウル準決勝で法大に勝利すること。昨年の雪辱を果たすべく、立ち上がったグリーンマシーンの勢いは、もはや誰にも止められない。(稲田礼子・法2)

【ニュース専修11月号16面】

山城・原組が初優勝 全日本学生卓球男子ダブルス



▲山城(右)原(左)

ント3-1で勝利を収めた。

「自分の目標はベスト8だったが、勢いで優勝出来た。うれしいのと同時にホッとした」と山城。(小平百子・文2)

第70回全日本学生卓球選手権大会が10月2日から5日まで兵庫県尼崎市記念公園総合体育館で行われ、男子ダブルスで山城譲二(商3・柳川高)、原雅彦(商1・青森山田高)が初優勝。

準決勝をセットカウント3-2で制し、決勝は青森大の三浦・川崎組と対戦。第1、2セットを連敗する好調な滑り出し。第3セットを落とすが、第4セットを11-8で奪い、セットカウ

【ニュース専修11月号16面】

森 裕悟鮮やかなV ラロ号記念障害飛越競技



オリンピック記念馬術大会が10月10日から12日までJRA馬事公苑で行われ、森裕悟(商2・関東第一高)・カデュセ号がラロ号記念障害飛越競技で見事優勝を果たした＝写真。カデュセ号は同競技3連覇(昨年、一昨年は天羽美穂＝平15経済＝が騎乗)。

また、沼尻孝夫(経営1・取手松陽高)・ロッキンジー号が3位、森・スフォルツァ号が4位、西山慶太(商1・岡山玉野高)・キリマンジャロ号が9位。標準障害飛越でも森・カデュセ号が4位、森・スフォルツァ号が7位と健闘した。

馬匹単位の登録のため、複数回出場した森は、「勝因は馬を信じていたこと」と話す通り、確実な手綱さばきで予選を勝ち進み、決勝でもノーミスでの好走。

「カデュセ号の3連覇がかかっていたのでうれしい。この馬で挑んだ初めての大会だったので、この優勝は自信になる」と喜びを語った。(日下部聡子・文1)

【ニュース専修11月号16面】